

# アーバンシステム環境通信

NO.9

2006年11月24日

## 青島—日本環境技術商談会 ～活発化する国内環境ベンチャーの進出～

去る11月1日（月）日本の環境ビジネス総合研究所と青島市環境保護産業協会の共催で「青島—日本環境技術商談会」が青島市海天ホテルで開催されました。昨今の発展が目覚ましい中国では、他の先進国が発展する際に発生した様々な環境問題に着目し、日本を含む諸外国の環境技術に大きな注目をしております。今回の商談会が開催された青島市を有する山東省でも、06年から2010年までの5年間で約3600億元（約5兆4千億円）の環境保護投資の実施計画が発表されたほどです。



今回の商談会には、日本・中国企業合わせて、約50社が参加し、様々な環境技術が持ち寄られました。参加日本企業の内、4割近くを環境関連のベンチャー企業が占めており、それを含めて数社が、業務提携や代理店の展開、現地拠点の設置に結びつく例もありました。



特にバイオディーゼル燃料製造装置、都市固体廃棄物の炭化処理をしてリサイクル燃料を生産する技術、省エネのバイオトイレ技術、真空フライヤー技術、古紙リサイクル技術、廃棄プラスチックからリサイクル新型環境保護資材になる技術、工業排水から貴金属を回収技術及び汚水処理技術などが注目され、中でも廃食用油を主な材料とするバイオディーゼルは、環境に優しいだけでなく、現行のディーゼル車に使える事から、大変注目されました。

そうした日本の環境技術に対して、後日の青島日報の経済ニュースでは、青島市で導入されれば、青島市循環経済発展のレベルを向上させるとの紹介を受けたほどでした。

商談会の2日目は、胶南市政府への表敬訪問や青島市に新しく建設される青島環保産業園への見学が行われ、今後も益々の発展が期待される中国経済の底力を肌と感じずにはられない、そんな内容で商談会は大成功を収めました。

【参考】青島日報

